

ハチ博士の ミツバチコラム

8



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

三月八日はミツバチの日

三月の八日はミツバチの日ということで、全日本ミツバチ協同組合と日本養蜂はちみつ協会が制定したとのことですが、もちろん語呂合わせですが、ミツバチには本格的に活動を始める大切な時期と言えます。この日は二十四節気の中の「啓蟄（けいちつ）」（今年には三月五日）の直後ですが、啓蟄は冬眠をしていた虫たちが地上にはい出てくる頃という意味です。

京都府の三月八日の天気出現率のデータをみると、平均気温は6・9℃、最高・最低

温度の平均が11・9℃-12・6℃となっています。過去50年間の記録では、この日の最も高い最高温度は19・3℃、最も低い最高温度は6・5℃で、最高温度が10℃（ニホンミツバチが巣の外で活動を始める温度）を超えた年が、50年のうち32年ありました。ま

た、最近10年間はほぼ毎年10℃を超えています。日当たりの良い場所は気象データより温度が高くなるので、京都に生息しているミツバチ達にとって三月八日は本格的に活動を始める日と言っても間違いではないでしょう。

陽春の花盛りとはいきませんが、息の長い冬の花に加えて、梅、早咲きの桜、ヒサカキ、菜の花などの花が子育てに必要な花粉や花蜜を提供してくれます。ミツバチの日の頃から一生懸命に飛び回る時期が始まりますので、ミツバチ達にとっても記念日になると思います。



イラスト バイオ環境学部 4回生
林利樹さん